



平成22年度年間計画

変更、具体内容については会報に記事が載りますのでご覧ください。また、いずれの行事にもボランティア・聞き手などになり参加自由ですので、奮って参加をよろしくお願いいたします。

開催日	時間	内容
5月15日(土)	13:00	5月会報印刷・郵送
6月23日(水)	14:00	図書館職員との懇談会
26日(土)	9:00~ 12:00	七夕飾りつけ
27日(日)	13:30	(らんぷ)の会朗読会
7月7日(水)	15:00	七夕飾り取り外し
9月18日(土)	13:00	9月会報印刷・郵送
10月~11月		図書館祭り 本のリサイクル市
10月16日(水)~	13:00	友の会作品展
11月20日(水)	13:00	
11月		文化探訪
11月28日(日)		クリスマスの飾りつけ
12月5日(日)		クリスマスコンサート
12月25日(土)		クリスマス飾り取り外し
1月		文化探訪の作品展
1月15日(土)	13:00	1月会報印刷・郵送
2月~3月		図書館訪問(25名定員)
3月11日(金)~		絵手紙教室の作品展
4月17日(日)	13:30	総会



友の会 総会報告

図書館友の会副会長 穂丸 崇子

第12回友の会総会が、4月18日(日)に集会室において開かれました。

まず、植田義男会長と水野久子図書館長に、挨拶を賜りました。続いて、21年度の活動報告・決算報告並びに監査報告、さらに、22年度の事業計画と予算のすべてにおいて承認されました。総会に御出席頂いた会員の皆様ありがとうございました。また、会費納入のためにおいで頂いた方々、まことに有難うございました。今年もまた、よろしく御願ひ申し上げます。

総会終了後は、10分間の休憩のあとコンサート会場に変わりました。会報や当日の案内による呼びかけもあり、たくさんの方々に参加していただきました。

また、コンサートの後にささやかな交流の場を持つことが出来ました。参加者からは様々な感想や質問などが、また、メンバーの方からは曲作りや練習の裏話を話していただき、とても有意義な時間を持つことが出来ました。

Running Wash Board コンサート

このコンサートは、会員でもある山本和昭氏(友の会広報担当)が率いる、Running Wash Boardの魅力的な音楽の世界を皆さんで堪能いたしました。このグループは、35年以上も瀬戸を中心に演奏活動を続けているのです。

今回の演奏者は、女性2名、男性2名で色々な楽器を巧みに使いながら8曲を、演奏していただきました。約50名の参加者は、「海上の森」「太陽の杜」「ホームスイートホーム」などのオリジナル曲から自然の恵みの風の音、樹木のささやき、ふるさとの懐かしい景色を肌で感じたことでしょうか。また、女性ボーカリストの「サトウキビ畑」を聴いているうちに、子どものころ鹿児島で、サトウキビの皮をむいて中身を噛むとジュシーな味が口にひろがったことを思い出しました。



友の会会報についてのアンケート 結果報告

今回「図書館友の会会報」についてアンケートを行いましたところ、33通の回答が寄せられました。集計の結果は以下のようでした。

- 1、 会報は全体を見るが18名、大体を見るが9名で、よく見ていただいていると感じました。
- 2、 会報の内容は大いに良いが7名、まあ良いが25名と肯定的評価をいただいたと思われます。
- 3、 報告・予定・サークル活動・随想中心の記載は良いが30名と、内容構成も評価されたものと思われます。また、「活動の全体が分かってよい」との意見もいただきました。
- 4、 会報への意見として、「楽しみにしている」、「分かりやすくてよい」「ご苦労様です」など、うれしい評価とともに、「やわらかい文を」、「若い者向きの文を」、さらに「カラー印刷を」など、いろいろな意見がありました。
- 5、 全体として、「土、日の読書会を」、「総会は時間をとって反対意見も聞く」などありました。

友の会の例会にて検討させていただき、取り入れ可能なものは活かさせていただきたいと思ひます。また、「予定を示してほしい」、「予告は図書館でないと分からない」などありましたが、5月号には年間行事日程、1月、9月号には次回までの具体的日程が出されておりますので、ご覧ください。

さらに、「ホームページがあれば」については、今号にインターネットの記事更新についてお知らせしてありますのでお読みください。



インターネットの記事更新

ここしばらく変更されなかったインターネット記事の更新がされました。

会への加入案内、会のサークル加入案内、会報(3回分)、会則などを載せることが出来ました。

友の会のサイトにアクセスされるには、グーグルなどの検索ページに「瀬戸図書館友の会」と入力していただければ、検索トップに友の会のページが出てきます。

ただ、会報などのデータはPDF形式となっておりますので、表示されるまでに時間がかかる場合がございますのでご承知おきください。

是非、友の会のページをご覧ください、ご意見、ご要望などございましたら図書館カウンターへお出しいただければと思ひます。



実施行事の報告

秋の文化探訪作品展

友の会々報1月号でご案内しました、「秋の文化探訪作品展」は瀬戸市立図書館2階ギャラリーにて、1月23日(土)より2月13日(土)の期間で開催しました。

絵手紙、俳句、写真等「秋の文化探訪」参加者の作品を展示しました。会員の方々にも見ていただいた事と思います、ありがとうございました。イタズラ書きが多いのでノート等を用意しませんでした。感想ご意見等がありましたら是非、友の会世話人会までお寄せ下さい。

今回参加していただいた方々からも“次を…”という声があり、また秋に開催できればと考えております。参加したい、こんな所へ行きたい等ご意見、ご希望がありましたら友の会世話人会へご連絡下さい。

友の会世話人会は原則毎週第3土曜日午後1時より図書館2階のボランティア室で行っていますので覗いてみて下さい。(松本)

日進市立図書館訪問

長谷川 清

去る3月12日 総勢15名で日進市立図書館を訪問しました。

遠くから見える、斬新な、シンボル性のある外観に驚きながら玄関をくぐり直ちに、館長の挨拶、館内外の案内、説明を頂くことが出来ました。

建設計画からのコンセプト、そして実際の館内現場、さらにはその裏側までも懇切丁寧な説明を受け、驚嘆に値するものばかりでした。館は複合施設となっており、外部の駐車場なども含めて全てにゆとりのある設備とスペースは最先端そのものであり、日進市文化の中心となっていることを明確に感じ取ることが出来るものでした。

館内見学後は、日進ボランティアグループの方々と分科会形式に分かれて、読み聞かせ、図書の修理などについて細かく意見の交換をさせていただき、

これまた、有意義な時間を持つことが出来ました。今後の活動に活かしたいものと考えます。

以上

日進図書館



瀬戸尾張旭郷土史研究同好会だより

当会(会長 加藤恬ほか十余名)はいまのところ、図書館友の会唯一の団体会員です。最近の会の様子をお伝えします。

定例会は毎月第一土曜日(一月と五月は第三)、午後2時から4時まで、前半「瀬戸通史を読む」、後半「会員個別テーマ発表」とに分けて進めております。

例年11月には、野外勉強会を実施。昨年は、瀬戸に縁の深い『山田重忠公』の菩提寺『長母寺』を訪ねました。また、会が発刊した『せと・あさひのむかしばなし』3巻の読み聞かせの会を、3回ほど開催(於図書館)しました。これからは、小学校などに出かけて読み聞かせが出来たらと考えております。

今年になって、野外の勉強会の場を広げることにしました。共通した興味・話題をもって楽しい輪を広げられたらと、「ええとこ訪ね隊」を旗あげ、年何回か開催にもっていきたいと思っております。

その第一弾として、3月、佐幕・倒幕にゆれる時代の高須藩四兄弟(尾張藩主徳川慶勝公・同徳川茂栄公・会津藩主松平容保・桑名藩主松平定敬)や、輪中の資料をそろえた海津市歴史資料館、および高須藩の菩提寺であり、また行基菩薩の入寂の地ともいわれる行基寺(養老山系高台にあり濃尾平野を一望)などを訪ねました。

会員には、ボランティアで名古屋城のガイド役の方もおります。名古屋開府四百年でもありますし、これからの「ええとこ訪ね隊」の動きは目が離せないと思います。その都度、掲示板にてご案内いたしますので、よろしく願いいたします。

(野島慶寿)



最近『アフリカを食い荒らす中国』＝セルジュ・ミッシェル、ミッシェル・ブーレ共著＝（河出書房新社）といういささかショッキングな本を読みました。書いた人はフランスとスイスの記者・外交官です。内容は題名以上の驚愕にあふれますが、今記はそうした中国（いまや世界一強大な隣国）の根幹に触れる1冊の本の読後感を記します。

周恩来は、中国が共産党政権になって以来、その死を迎えるまでの27年間、総理（首相）を務めた人ですが、書いたのは永くその秘書を務めた方で、「秘録」とはアメリカに渡って書いたということです。

この時代は毛沢東の時代と重なりますから、常にNo.2の位置にあったかということ、彼は用心に用心を重ね、No.3以下になるように心掛けていたらしい。しかし、No.2であった劉少奇や林彪らが、毛沢東によって殺されると、No.2がいなくなって、心ならずもその位置を占めることになります。

日中国交回復（1972年＝日本側は田中角栄）の時、すでにガン（膀胱ガン）を患っていて、本人も知っていた様子です。しかし、毛沢東の許可がないと手術も入院もできない組織でしたから、そのOKが出ないばかりでなく、40年も前の実績などを取り上げて、公開で批判を繰り返されます。

やっと手術を受けたのは2年後です。すでに手遅れで医師団は涙を流したとあります。栄光に包まれるべき彼の晩年は、ガンの肉体の苦しみに耐え、精神的には毛沢東とその取り巻きによる批判に苦悶し、もじどおりベットの上でのたうちまわって「私は党に忠実だ。人民に忠実だ」叫んで仕事をしなければならなかったとあります。そして、いまわの際に『東方紅』（毛沢東をたたえる歌）の1節を口ずさむというくだりは、何か背筋に冷たいものを感じます。

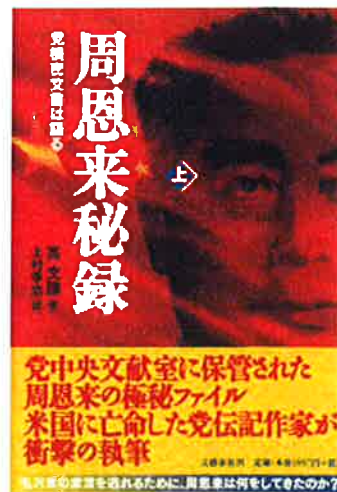
『共産党』という党は、19世紀半ばドイツに住んでいたユダヤ人のカール・マルクスの『共産党宣言』によって始まりますが、（周知のように）その根底には深いヒューマニズムの精神があります。上のことはそのかけらもないのは呆然とするばかりです。

近々『趙紫陽・極秘回想録』（光文社）という本が出ました。趙紫陽は、「天安門事件」（1989年）の時の共産党主席です。（しかしNo.1でなく、鄧小平がいました）弾圧に反対したためにその席を追われ、その後16年にわたる軟禁生活を送りますが、孫のオモチャなどに紛らせたテープを、秘書の息子などによって復刻されたものです。

「天安門事件」はもともとその前任者の胡耀邦を悼む集まりでしたが、世界の民主化の流れに連なるのを恐れて鎮圧されます。ちょうどその時、ソ連の共産党を崩壊させたゴルバチョフが滞在していたことが象徴的です。

ちなみに、中国の軍隊は、国家の軍隊ではなく、共産党の軍隊ですから、ほかの国の軍隊とは違った動き方をします。

町井孝行



次の詩を、読んで下さいませんか。そうそう、ちょっと声を出して・・・。

生きる

谷川 俊太郎

いきているということ
 いま生きているということ
 それはのどがかわくということ
 木もれ陽がまぶしいということ
 ふっと或るメロディを思い出すということ
 くしゃみをする事
 あなたと手をつなぐこと

生きているということ
 いま生きているということ
 いま遠くで犬が吠えるということ
 いま地球が廻っているということ
 いまどこかで産声があがるということ
 いまどこかで兵士が傷つくということ
 いまぶらんこがゆれているということ
 いまいまが過ぎていくこと

(省略)

生きているということ
 今生きているということ

生きているということ
 いま生きているということ
 鳥ははばたくということ
 海はとどろくということ
 かたつむりははうということ
 人は愛するということ
 あなたの手のぬくみ
 いのちということ

泣けるということ
 笑えるということ
 怒れるということ
 自由ということ

学校の三月はお別れのシーズンでもあります。私達よみきかせ「らんぷ」の会が年に何回かお邪魔している南山中学校の A 学級からもこの春二名の生徒さんが巣立っていきました。二月の読み聞かせは、この二名とのお別れの会でもあり、私はこの日のため冒頭にあげた詩「生きる」を白紙に大書して持って行きました。私の順番が来てこの詩を黒板に貼っていると、もう生徒達の間から「…こと」「…こと」という合唱のような声が自ずと湧きあがり教室全体の空気を揺るがすようになりました。これは私が全く予期せぬことでした。

この詩は各行の終わりがほとんど「…こと」で終わっていて、このくり返しの韻が合唱を力強く締めていてくれています。この合唱は、私のように、もう毎日「生きる」という感動の無しに無為に過ごしている者に対して、生徒達からの叱咤激励のように聞こえました。

朗読が終わると次は生徒たちが練習を重ねたハンドベルの合奏です。いつしか他の先生達も入室されていて生徒達を応援されていました。続いて、巣立っていく生徒からの立派な答辞。いつしか担任の先生の眼に光るものがありました。「らんぷ」のメンバーにも、頬を濡らす者もありました。

よみきかせで結ばれた感動のひと時でした。

フィリピンへの旅行に際しては、「とにかくセントレアでは両替するな」でしょう。馬鹿高いですからね。旅慣れたあなたなら、フィリピン空港内の ATM を利用してカードでタクシー代の小銭を払いだしましょう。初心者のあなたはタクシーに乗れないので、小銭も必要ありません。ホテルの支払いはカード使えるしね。市内にはいくらでもレートの良い両替所がありますから。

最近では空港の職員も良くなったようで、不当なチップの請求はないようです。でもそれは、あなたがルールを守っていたならばということです。もしも、ルール違反をしていて、それが見つかったならば……。ニホンの常識では考えられないことが起こりますから、くれぐれもルールと笑顔は忘れないように。

そして、空港を出るとそこはマニラ、ねとっとした空気と特有の匂いが出迎えてくれます。あっ、それからぼったクリタクシーもね。

どのタクシーがボッタクリか見分ける方法はありません。なぜなら、90%以上のタクシーがボッタクリだからです。大切なことは何事もなく目的地まで連れて行ってくれるタクシーをみつける事ですが、日本人にそれがわかるわけがありません。ではどうしたらいいか？

馬鹿高いですがホテルを予約するときには迎えのタクシーも予約しておきましょう。どのくらい高いかということ、ボッタクリタクシーの2倍は取ります。ひどいと思うでしょう？ でも、日本人がフィリピンで買う物で一番高いものは安全なのです。私はフィリピンで、命に値段はつけられないなと実感しましたから。 さて次回は「チップ」について。ほんとに奇奇怪怪なものです。

例会のお知らせ

『司馬遼太郎を読む会』

毎月第二木曜日 PM 2 時



おはなしの会「らんぷ」の勉強会

毎月第二水曜日 PM 1 時～3 時

『万葉集を読む会』

毎月第一火曜日 PM 2 時～4 時

「司馬遷の史記を読む会」

毎月第三木曜日 PM 2 時～4 時

「俳句教室」

毎月第一水曜日 PM 2 時～4 時

「絵手紙教室」

毎月第二金曜日 PM 1 時半～3 時半

会費納入についてのお願い

下記の2方法にて、早目に納入いただければ幸いです。

会費は年間 1,000 円です。



ただし郵便局で振り込まれる場合は、送料 120 円が要りますので、880 円を振り込んでいただければ結構です。

口座番号

00860-2-129702

加入者名 瀬戸図書館友の会

図書館で納入される場合は、総会時か、例会時(毎月第3土曜日の13時～16時)2階のボランティア室へ会費 1,000 円をご持参ください。